

第9回埼玉県競輪事業検討委員会 議事録

- 日時 令和6年1月22日（月） 14:00～16:30
- 場所 大宮ソニックシティビル 604号室
- 出席者 岩崎康夫委員（委員長）、小川千恵子委員（副委員長）、岡村春香委員、栗原千亜希委員、小沼航士委員、中村司委員、東角井真臣委員
- 議事概要
 - 1 新たに就任した委員紹介
新たに公益財団法人JKA 企画戦略部 企画課長の中村氏が委員に就任した旨の紹介及び中村氏からの挨拶。
 - 2 会議の公開について
議題（2）のうち、「大宮双輪場関係者へのヒアリング」については、埼玉県情報公開条例第10条第5項に基づき非公開とし、その他については原則どおり公開とする。
 - 3 議事
議題（1）埼玉県営競輪事業の売上及び課題への対応状況について
議題（2）大宮双輪場のあり方について
事務局より資料を用いて説明

【議事概要】

（議題（1）埼玉県営競輪事業の売上及び課題への対応状況について事務局より説明）

○ 小川委員

「1-② 投資効果を考えた集中的な投資」の（1）キャッシュレス投票機の導入について、3点お伺いします。1つ目、キャッシュレス投票機は、県と委託事業者のどちらが購入しているのか、2つ目は1台当たりの価格、3つ目は現在何台購入しており、今後どの程度投資していくのか教えていただければと思います。

○ 事務局

まず一つ目ですが、包括委託契約をしている日本トーターが購入しています。

2つ目の価格ですが、システム導入費用もあり、1台あたりの単価をお伝えするのは難しいですが、購入した4台にシステム導入費用を含めて約2,000万円程度です。

3つ目の今後の投資についてですが、現在の会員数が234名に対し1年後の目標会員数を1,000人としています。今後の会員数の増加傾向を踏まえて、今後の投資を検討してまいります。

○ 小川委員

キャッシュレス投票機は西武園競輪場のどのあたりに設置していますか。

○ 事務局

場外発売時にメインで使っているサイクルセンターという建物の中や特別観覧席に設置しています。

○ 小川委員

私は戸田競艇場の代表監査委員を務めており視察によく行きますが、競艇場ではキャッシュレス投票機が非常に多く導入されています。競輪場で導入していなかった理由はあるのでしょうか。

○ 事務局

近年、新型コロナウイルス感染症の流行により来場者が減少しておりました。今年度に入り、新型コロナウイルス感染症が感染症法の5類に分類され、お客様も増えてきたタイミングで、まずは西武園競輪場でやらせていただいたというところです。

○ 小川委員

他の競輪場では、すでに導入されているということでしょうか。

○ 事務局

以前から導入している競輪場もあります。

○ 栗原委員

キャッシュレス投票機の専用カードに事前にチャージができ、チャージ時にはポイント付与等が可能とありますが、このポイントは何に使用できますか。

○ 事務局

車券の購入に使用できます。

○ 東角井委員

埼玉県営競輪の入場者数や売上げ等のグラフ、チャネル別売り上げの推移等の記載がありますが、令和5年度の県収益の見込みと西武園競輪場と大宮競輪場それぞれの収益がもし分かっていたら教えていただきたいと思えます。

○ 事務局

収益金につきましては、約5.5億円の見込みとなっています。2場運営を前提とした包括委託契約を結んでおりますので、西武園競輪場と大宮競輪場それぞれの収益については、明確に分けるのが難しいところでございます。

○ 小沼委員

様々なイベントを実施されている中で、それぞれのイベントのKPIや目的が無いと疲労感が溜まるのではないかと思います。そのため、今年の目標や3～5年後のビジョン等を設定して進めていくと良いと考えておりますが、そのようなものを設定しているのか教えてください。

また、入場者数が増加傾向にある中で、客層や属性はどのようになっているのでしょうか。競輪場には近寄りやすい方がいるイメージがあります。そのような方が減少傾向にあり、場内に入りやすくアットホームな雰囲気になってきているのか教えていただければと思います。

○ 事務局

まず1点目のイベントを実施する際の目的やKPIについてですが、厳密な指標として掲げているものはございませんが、入場者数の増加を目標としています。

結果として、西武園競輪場で開催したオールスター競輪や大宮記念競輪で、それぞれ前年度の約1.5倍のお客様に御来場いただくことができたところでございます。

新型コロナウイルス感染症の流行が明けたというところもあり、入場者数の増加要因をしっかりと分析するということが中々難しい状況ですが、皆様が落ち着いて外出できるという条件が整ってきていますので、その中でどのように具体的な目標を立て、結果を検証しな

がら進めていくのかということとは課題であると思っておりますので、御指摘を踏まえて今後しっかりと検討いたします。

2点目の客層については、この数年間コロナの影響で入場者数が少ない状況であったこともあり、経年の比較をするのは難しいところですが、今回、様々なイベントを打つに当たり、ファミリー層や若年層にも来場いただけるように意識してイベントを展開いたしました。

具体的に大宮記念競輪を例に申し上げますと、県立大宮高校のダンス部や、地域のダンスチーム、ジェクサー大宮のキッズスクールにも出演していただきました。この取組で、出演者の家族や友達など今まで競輪場へ来場したことがないような方々が多く来てくださったところに手応えを感じています。

○ 岡村委員

3点意見がございます。1つ目がチャンネル別売上の推移で、電話・インターネット投票の売上げが伸びています。今後広告やマーケティングがより重要になると思っておりますので、戦略の検討をお願いします。

2つ目は「2-③競輪場内でアートなどをテーマにしたイベントの開催」についてです。以前ご報告いただいたときに素晴らしいなと思ったものの競輪場の敷地が広い中で、5枚のアートが目立たないという印象を受け、もったいないと思ったため、目立つような仕組みや展示方法を考えた方がいいと思います。一方、アートを飾るだけでなく障害者団体の方を招待している取組は発展性がある良い取り組みだと思えました。障害者団体によってはグッズ販売もしているため、絵の展示とグッズ販売をセットで考えていくのもいいのではないかと思います。

3つ目は、「3-②自転車競技の普及に向けた取組の充実」について、パルスシステム埼玉と連携しているとのことですが、自転車と親和性が高い企業とも一緒に企画ができるといいのではないかと考えました。

○ 事務局

非常に貴重なご意見いただきましたので、参考にさせていただき取組みを進めさせていただきたいと思っております。

○ 中村委員

様々な取組みをされていることがよく分かりました。競輪の新たな価値の創出や魅力の発信といったところに尽力されているなどというところが見て取れます。引き続き、東日本競輪発祥の大宮双輪場と西武園競輪場の両輪で、地域と密着、連携していくということが大事だと思います。加えて今年は、オリンピックやパラリンピックもございますので、自転車競技やパラスポーツも含め、そういったところにもチャレンジしていただけたらより良いと思っております。

一方、社会貢献といった部分については、この取組みの中で少し見えてこないところがあると感じました。競輪の一つの目的として社会貢献がございますので、そういったところを出していただけると良いかと思います。直近ですと、能登半島地震の被災地に対して日本赤十字社を通じて競輪の補助事業として物資を届けたり義援金を送ったりしておりますし、2月からは能登半島復興支援競輪を実施していくので、そういった社会貢献のPRがあればもっと県民の皆さんも受け入れていただきやすい事業になってくると思っておりますので、その辺りもよろしくお願ひしたいと思っております。

○ 事務局

社会貢献についても、様々な打ち出しができるように、所内で検討して取り組みたいと思

います。

○ 岩崎委員長

詳細な説明をいただきまして、ありがとうございます。それでは次に、(2)大宮双輪場のあり方について事務局から説明をお願いいたします。

(議題(2)大宮双輪場のあり方について 事務局より説明)

○ 岩崎委員長

ありがとうございます。まだ詳細な検討ではなく、現段階でのメリットデメリットということですが、初めて出た資料ですので、どのパターンについても結構なのでご質問、ご意見がございましたらお願いしたいと思います。

○ 栗原委員

2点質問がございます。メリットデメリットの中で、大宮双輪場での雇用が維持されるということですが、現在何人ぐらいの雇用があるのか、また仮に固定資産税の負担が増加するというのであれば、どの程度の増加が見込まれるのか、教えていただきたいと思ます。

○ 事務局

まず雇用の状況ですが、大宮双輪場で本場開催した場合は、1日当たり190人程度の方が働いております。場外発売の時は、1日当たり110人程度の方が働いています。

固定資産税は、建設費や土地の価格等に左右されますので、正確に申し上げるのは難しいですが、仮に建設費を70億円程度と試算すると、年間約1億円程度になります。

○ 東角井委員

検討パターン別のメリットデメリットのボリュームや書き方を見ると、①番のメリットが一番多くてデメリットが少ないという書き方になっていますが、もう少しエビデンスや情報が欲しいです。例えば①に年間延べ23万人の来場者等の経済効果が継続するとあります。先ほどの埼玉県営競輪の入場者数のグラフを見ると年間5万人が本場入場者数で、場外発売で18万人が来場するということだと思います。場外車券売場だけを設置すれば、18万人の来場が見込めるということになります。また、⑤で埼玉県営競輪事業の売上及び収益が減少するとデメリットに書いてありますが、2場体制でなくなるので、売上は減少すると思いますが、収益が果たして減少するのか疑問です。収益は、売上に対して人件費や払戻金や賞金等のコストをマイナスにすることで出さると思うのですが、私はむしろ収益は1場体制にして、効率的な運用をすればプラスのような気がいたします。①に大宮公園内で建て替えると多額の初期費用が必要となると書いてありますが、何とも答えようがないとは思いますがいくらかの金額になるのかが分かりません。

あと、西武園競輪場の1場体制とした場合、売上がどれぐらいになるのでしょうか。先ほど、年間約5.5億円収益があるが大宮と西武園の内訳については明確に答えづらいとおっしゃっていましたが、私の勝手な予想として、売上の比率からすると大宮が1に対して西武園が1.75程度になります。そうすると、5.5億円のうち2億円程度がおそらく大宮の売上に対する埼玉県の収益だと推測しています。そして、多額の初期費用となる建設費がどの程度なのか先ほど調べたら、日本ハムファイターズの球場であるエスコンフィールド北海道は約600億円ようです。例えば半分の300億円だとしても、年間2億円収益があっても費用を回収するのに150年かかってしまいます。仮に200億円だとしても100年経過しないと収益が回収できないのであれば1場体制にして、上手く運用したほうが良い

のではないかと思います。もう少しこのメリットデメリットのエビデンスや金額等を客観的にわかるように提示していただきたいと思いました。

○ 事務局

いただきましたご意見を参考にさせていただき、次回の委員会ではライフサイクルコストを事務局から提示できるように準備して参ります。

○ 岩崎委員長

今回の検討資料については双輪場を建てるにしても、どの程度の規模で建てられるのか、大宮スーパーボールパーク構想の中で、複合施設という形にした場合、どのような形がとれるのか等多くの疑問点はあるかと思います。加えて、どの程度の建設費で、どのような償還の仕方を採用して、収益を生み出していくのか等の詳細な検討を来年にかけて行っていただくということになるかと思います。

今回は、その前段として全体のパターンということで挙げていただきましたので、確かにまだまだ検討すべきことが多いと思います。申し訳ございませんけれども、現段階で何かご意見がありましたらお願いをしたいと思います。

○ 小沼委員

今日は委員長もおっしゃった通り、まずは今後どのように検討すれば良いかという観点で様々な意見を聞いて次回につなげていくというように考えており、そのヒントが欲しいのですが、私も東角井委員と一緒に数字や根拠をもう少し出していただければと思います。

例えば、固定資産税の負担がない理由について、民間が建てるのと税負担が発生するのか等、一つ一つもう少し説明していただきたいと思います。

加えて、恐らくステークホルダーによってもメリットデメリット異なるのではないかと思います。その中で県民のためにどれが一番良いのか、さらに大宮双輪場のためにはどれが良いのか、入札される企業にとってはどうかと、メリットデメリットが変わってきてしまう中での検討となると考えています。一方、それらを小分けにしてたくさん作ると非常に多くのパターンができてしまうため、何か良い組み合わせを事務局の方でご検討いただけると助かります。

○ 小川副委員長

意見というよりも個人的な感想に近いですが、他の場所に移転して建設するパターンは、埼玉県内でまとまった土地を取得することが難しいこと、非常に多くのコストがかかることを踏まえると限りなく難しいと思っています。それでもこのパターンを検討するのでしょうか。

○ 事務局

事務局としては、様々な可能性を排除することなく検討したいと考えております。

○ 中村委員

先ほど委員長からもお話ありましたが、施設の規模といったところがないと、次に予定されているライフサイクルコストについての検討がしにくいのではないかと考えております。333バンクにするのか400バンクにするのか、500バンクにするのかによっても、かなりコストも変わってくるというふうに思います。その検討には、建設後の入場者数の見込みによっても施設の大きさも変わってくるかと考えております。

また、施設を新しくすることによって、西武園競輪場では開催されていて大宮競輪場ではほとんど開催されていないGIレースの開催ができるようになれば収益性も上がっていきま

すので、そういった部分の検討もぜひ入れていただければと思います。

○ 小沼委員

移転について、例えば第2、第3公園に移転することも可能性としてあるのではないかと思います。また、移転したときに移転先の住民に理解されるか不透明とのことですが、移転しなくてもその場で建て替えることに、住民の理解が得られるのか懸念があるのかなと思うので、そこを含めての検討をお願いします。

○ 東角井委員

参考に、大宮公園グランドデザインの際には、第2、第3公園にスーパーボールパークを作るとまとまった記憶があります。

メリットデメリットの話に戻しますが、例えば①の大宮公園周辺地域ですが、私は大宮公園周辺地域で生活していますし、神社もそこにありますが、競輪場が行っている周辺地域での活動（清掃や交通誘導等）が継続されるとあります。

これは果たしてメリットなのかと私は考えておまして、デメリットの方には、競輪場来場者が生活環境へ与える影響の懸念が続くとあります。それを解消するために周辺地域での活動をしているわけであって、メリットではなく、ただのデメリットを解決するための施策に過ぎないので、このメリットは消すべきだと私は地元の意見として思っております。

先ほど小沼委員からお話のあった競輪の客層ですが、昭和40～50年代、私の子供の頃は、お客さんが地元によく影響を与えたことは間違いないと思います。大宮駅で降りた人が歩いて20分ぐらいかけて、氷川神社の境内を通過して競輪場に行き、勝った人はタクシーやバスで帰りますが、負けた人は皆、参道を歩いて帰っていました。私は子供のころ、競輪がある日は、16時半ぐらいには絶対に外に出るなど言われたぐらい、地元としてはあまりよくない環境でした。ただ昭和60年代から最近にかけては、ほとんどそういうことはなく氷川神社の参道を通らずに、大宮駅からバスを使って競輪場に行っています。

そのお客さんもお年寄りの方が年金を少し競輪に賭けるといような雰囲気があり、ギャンブル性は高くなく、本当に老後の楽しみのような感覚でやっているという印象があります。

そのため、地元としてここに競輪場があるから嫌だということではなく、ただ競輪場でもなくとも良いのではという意見もあると思います。競輪場は使用用途が限定され過ぎているため、地元にはみんなが活用できるような場所になった方が良いという意見もあると思います。

○ 岩崎委員長

小沼委員がおっしゃっていた客層の話は私もお聞きしたかったのですが、個人的な話ですが約20年前に一度大宮記念競輪が開催されているときに仕事で見にきました。

その時は、高齢の方が非常に多かったという印象がありました。それに比べて、去年今年と大宮記念を見させていただきまして、お客さんが随分若返ったなという感じもするし、昔ほど近寄りやすいお客さんが少なくなった印象を受け、そんなに危ないという感じはなくなったという気がしております。お子さんや赤ちゃんを連れて来られている方もいらっしゃいましたし、カップルで来られている方もいらっしゃいました。その辺の状況がどうなっているのかという分析をお願いしたいと思っております。

もう一つ、検討パターンの中で申し上げたいのは自転車競技についてです。競輪にはオリンピック競技種目というイメージがあります。埼玉県として自転車競技をどのように活性化していくのか、考えていく必要があるのではないかと思います。

様々なファクターがありますので、ある程度のところでまとめていただいた資料を事務局にお作りいただいて、検討させていただければと思います。規模や金額といった部分が大きいのかと思っておりますが、引き続き、皆様方からご意見をいただいて、進めていきます。

いと思っております。

○ 事務局

ありがとうございます。皆様方の意見を踏まえまして、次回以降、しっかりとご審議いただけるような資料を用意して参りますので引き続きよろしく申し上げます。

以上